

# 実際にやってみないと わからない

し、地方に遠征もしたい。普通の社会人としてそういったことができないイメージがありますよね。でもいざ働いてみると、趣味と仕事を両立している人は、会社の中にも友達にも意外とたくさんいて。結局のところ、学生のときに怖がっていたほど仕事一色にはならず、むしろ学生時代のほうがサークルもやってバイトもやって授業も受けて、しかもオタ活もしなきゃいけないって忙しかったなと思いますね(笑)

——学生の私からすると週5で働くことが想像できないので、社会人になると自分の自由な時間が減ってしまうという感覚があります。

でも、学生も特に1〜2年生の間は週5で大学に通っている人が多いですよ。その上バイトやサークルをしている人もいることを考えると、学生と社会人にそこまで差はない気がします。社会人は思っているほど立派ではないので大丈夫です(笑)仕事の種類にもよりますが、ある一定の期間内にノルマを達成できさえすれば、具体的なスケジュールはある程度自分で組める仕事もたくさんあるし。例えば、「水曜日は舞台の初日だから絶対定時で上がらない」と思ったら、水曜日は早めに仕事を切り上げて、その分火曜日と木曜日に残業して頑張る、ということができたりします。学生だとそういった融通は意外と利かないじゃないですか。前期の授業を登録したあ

とにコンサートの日程が発表されて、授業と被っているから行けないということもあったので、働きはじめてからのほうが趣味と仕事の両立はしやすくなったと思います。

確かに、社会人にも融通が利かないことはあります。出版社時代にしてきた漫画の編集の仕事では、締め切り前だと10時間近く会社において原稿を待つこともありましたが、でもいろいろな工夫をして趣味と仕事を両立させていました。具体的には、会社の人に自分の趣味を事前に伝えておいて、好きなアイドルが出ていたときは会社のテレビで音楽番組を見せようというたこと(笑) また、同じ編集部にはいろいろな趣味を持った人がたくさんいました。そうすると、コンサートのために早退しなければならぬ旨を、宝塚ファンの人に伝えて仕事を代わってもらうとか、逆にその人が宝塚の舞台初日で兵庫に行かなければならないときは仕事を代わってあげる、といったことができるんです。ギブアンドテイクの関係ですね(笑)

——趣味と仕事をうまく両立させるためには、趣味をオープンにしておいたほうが良いのでしょうか。

さっきの例のように、事前に趣味をオープンしておくのと良いこともあるんですよ。ただそれは私の職場のように、周りにオタクがたくさんいて、オタクであること

が浮かない場合に限られます。そうでない職場だとオタクであることが浮いてしまうので、趣味をオープンにすることは必ずしもプラスにならないと思います。職業によつては、そもそも趣味をオープンにすることが不可能な場合もあるかもしれません。例えば、中学校の先生が職員室で「ジャニーズジュニアの中学生の子のファンなんです」とは言いづらそうですよね……。

また、趣味をオープンにしたからには、趣味にかまけていると思われないように、オタクとしての活動のない期間に人一倍仕事を頑張る必要があります。ただ、良い意味で自分にプレッシャーをかけることにもなるので、プラスでもあると思います。

——コンサートなどでの遠征にはまとまった休みが必要になりますが、仕事をしているとそういった休みが取りにくくなってしまう気がします。

その心配は分かります。でも、社員も夏休みと冬休みは基本的にあるところが多いですからね。そこをうまく利用しています。社会人は学生時代のように休みの時期が固定されているわけではありません。ある期間に決まった日数の休みを取ると、それが長期休みとして認められる仕組みの会社が多いと思います。私も会社員時代はその仕組みを使って、コンサートなどのスケジュールに合わせて休む日を決めるようにしていました。